

乱視&老視治療の Hot topics

～基礎研究とIOLの視点から～

日時 2026年9月18日(金) 12:10～13:10

会場 シーガイアコンベンションセンター 蘭玉(サミットホール4階)

座長

竹下 哲二 先生
上天草総合病院



ご略歴

1987年 熊本大学 卒業 同眼科学教室 入局
1993年 上天草総合病院 眼科医長
1994年 人吉総合病院 眼科部長
1995年 熊本大学医学部 助手
1998年 山鹿市立病院 眼科長
2003年 宮崎医科大学(現宮崎大学医学部) 講師
2003年 上天草総合病院 眼科部長
2014年 同 副院長兼眼科部長
2018年 同 院長代理兼眼科部長
2023年 熊本大学教育学部 客員教授(2026年終了)

宮崎には生目神社という、眼病治療の霊地がある。ここから分霊されて建立された生目神社が上天草市にも存在する。この霊地宮崎において「乱視&老視治療」を科学的に考えてみようというのが本セミナーの趣旨である。

中澤先生にはご専門分野である、水晶体の微小循環システムや、老視・白内障発生のメカニズムについて、臨床従事者にもわかりやすいようにお話しいただく。小松先生には従来型Vivinex単焦点IOLとVivinex Impressの比較から新世代単焦点IOLの有用性をお話しいただくとともに、Vivinex Impress Toricの術後成績についてもご紹介いただく。木澤先生には光エネルギーの配分の違う多焦点レンズであるVivinex GemetricとVivinex Gemetric Plusの有効な使い方について、患者満足度の観点からお話しいただく。

三人の演者が天岩戸を開き、あふれ出したまばゆい光が本セミナーを受講された方々の明日からの診療を明るく照らすことを期待する。

演者

1

老視克服に向けた水晶体研究

中澤 洋介 先生 同志社女子大学

演者

2

Vivinex Impressの実力と乱視矯正への挑戦 —エビデンスからImpress Toricまで—

小松 功生士 先生 町田市民病院

演者

3

患者満足度を高めるGemetric / Gemetric Plusの使い分け

木澤 純也 先生 映画館通りキザワ眼科

乱視&老視治療のHot topics

～基礎研究とIOLの視点から～

演者
1

老視克服に向けた水晶体研究

超高齢社会を迎えた我が国では、老視(老眼)はQOLを大きく低下させる加齢性変化の一つである。しかし、その本態である「水晶体硬化」の分子機構はいまだ十分には解明されておらず、水晶体を標的とした有効な薬物治療も開発されていない。一方、近年の水晶体研究の進展により、水晶体が単なる受動的な透明組織ではなく、独自の“微小循環システム”を有し、イオン・水輸送や代謝恒常性によって透明性および柔軟性を維持していることが明らかとなってきた。また、この恒常性破綻が、タンパク質凝集、酸化ストレス、水晶体硬化を介して、老視や白内障発症に深く関与する可能性が示唆されている。

本シンポジウムでは、水晶体の微小循環システムをはじめとする最新の基礎研究を概説するとともに、老視・白内障の発症メカニズムや治療標的としての可能性について議論する。さらに、創薬研究や新規治療戦略などの水晶体研究の未来を議論したい。



中澤 洋介 先生
同志社女子大学

ご略歴

2005年 摂南大学薬学部 助手
2009年 慶應義塾大学薬学部 助手
2012年 慶應義塾大学薬学部 助教
2016年 The University of Auckland,
Visiting Researcher
2019年 慶應義塾大学薬学部 専任講師
2025年 慶應義塾大学薬学部 准教授
2026年 同志社女子大学薬学部 教授

演者
2

Vivinex Impressの実力と乱視矯正への挑戦 —エビデンスからImpress Toricまで—

強化単焦点IOL(Enhanced Monofocal)であるVivinex Impress(XY1-EM)は、通常の単焦点IOLと同等の遠方視力・コントラスト感度を維持しつつ、優れた中間視力をもたらすことが期待される。

演者らは、町田市民病院においてXY1-EMとXY1-SP(同一プラットフォーム単焦点)を比較した後ろ向き研究(各50眼)を実施した。対象は正視狙いで術前角膜乱視1D未満の連続症例とし、眼疾患合併例は除外した。術後中間視力(70cm)はEM群で有意に良好であり($p=0.003$)、コントラスト感度・異常光視症に両群間で差は認めなかった。また、小瞳孔例において中間視力がより良好となる傾向が示唆された(Komatsu K et al. J Refract Surg. 2025)。

加えて、Impress Toricの自験例を報告する。今後はT2モデルの追加によりラインナップがさらに充実することから、乱視矯正を含めたImpressシリーズの幅広い活用が期待される。

本講演が、日常診療においてImpressシリーズを選択・活用する際の一助となれば幸いです。



小松 功生士 先生
町田市民病院

ご略歴

2013年 東京慈恵会医科大学医学部医学科 卒業
2013年 聖路加国際病院 初期臨床研修
2015年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 助教
2023年 グロービス経営大学院大学 卒業 経営学修士(MBA)
2023年-現在 町田市民病院 担当医長
2024年 学位(医学博士) 受領
2025年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 講師

演者
3

患者満足度を高めるGemetric / Gemetric Plusの使い分け

近年、眼内レンズに対する患者の要求は非常に高く、すべての距離での良好な視機能、良好なコントラスト感度、さらに不快光視現象の少ない眼内レンズを希望する患者が増えていると感じる。しかし、現在上市されている眼内レンズの中に、これらすべてを完全に網羅するものはない。その中で、HOYA社のGemetric / Gemetric Plusを適切に選択することで、高い患者満足度を実現できるのではないかと考えている。

多焦点眼内レンズを選択する際、公共交通機関が貧弱で、広大な県土を有する岩手県では、日常生活において自動車運転が不可欠な地域も多い。そのため、遠方コントラストの良好さは重要な選択基準となる。単焦点眼内レンズに近い良好な遠方コントラストが期待できるGemetricを両眼に挿入した場合、高い運転時の満足度が得られ、さらに中間視および近方視への不満も少ない。

一方、より近方視への要求が高く、かつ自動車運転も必要な症例においては、Gemetric / Gemetric Plusのペアリングが非常に有効である。両レンズは同一の素材と基本光学設計を有するFull Range型3焦点眼内レンズであるが、遠方から近方への光エネルギー配分が異なる。この違いを生かすことで、遠方から近方まで、より自然な見え方に近づけることが可能になると考えている。

本セミナーでは、当院におけるGemetric両眼挿入症例とGemetric / Gemetric Plusペアリング症例の経験をもとに、患者満足度を高めるための多焦点眼内レンズ選択の実践法を解説する。



木澤 純也 先生
映画館通りキザワ眼科

ご略歴

2002年 岩手医科大学医学部 卒業
2002年 岩手医科大学 眼科入局
2006年 岩手医科大学大学院 卒業
2007年 岩手県立久慈病院 眼科科長
2009年 岩手県立二戸病院 眼科科長
2013年 岩手医科大学 眼科
2024年 映画館通りキザワ眼科
岩手医科大学眼科 非常勤講師